

## 平成27年度 長崎県立北松西高等学校 学校自己評価【総括評価表】

教育方針	◎ 明るく生き生きとした学校を創り、社会に貢献することのできる心身共に健全で調和のとれた豊かな人間の育成に努める。
努力目標	◆ 各教科とキャリア教育との関連性を正しく理解し、教科における活動を実践する。 ◆ 「学力の向上」「生活力の向上」「家庭・地域との連携」を柱に、小中高一貫教育を推進する。

### 本年度の努力目標

(1) 学力の充実と向上を図る。      (2) 基本的生活習慣の確立を図り、規範意識の高揚に努める。      (3) 進路指導の充実を図る。      (4) 小中高一貫教育の内容の充実を図る。

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題
				前期	後期	総合	
学校の組織的経営力の充実と向上	学校運営の円滑化	<b>教務</b> 各種行事等における早期着手と各分掌・学年との連携	教職員の仕事が円滑に進むよう教務の計画を事前に示す。 教務の計画を事前に示し、役割が明確に伝わる要項が提示できれば「3」 1ヶ月前に提示できれば「4」	4	4	B	・各種行事の要項および日程は十分な余裕を持って提示ができています。また、急な状況変更による対応も、授業確保に努めながら行っている。 ・プリンターの不具合などが度重なったが、事務部の迅速な対応で大きな支障とはならなかった。
			備品・消耗品・周辺機器の整備をする。 必要なもの・システムが整備され、日々の仕事に支障を来さなければ「3」	3	3		
	地域に根ざした学校づくりに努める。	<b>教務</b> 広報活動を充実させ、地域や保護者との連携を図る。	「北松西高だより」の発行。 年5回発行すれば「3」（それ以上発行すれば4）	-	4	A	・ウィークスも6月の公開授業同様、予定されていた授業1時間に対しそれぞれ10～15名程度の参観があった。特に、今年度はババママ体感事業を公開にしたことで、小中の先生方も参観でき、研鑽が深まったのではないかと思う。 ・「西高だより」の発行やwebページの更新も速やかになされ、広報活動の充実がなされた。
			授業参観の実施。 ウィークスおよび公開授業を実施し、各々10名以上の参観者があれば「3」（15名以上の参加で4）	4	4		
			webページの定期的な更新。 年5回更新すれば「3」（それ以上更新すれば4）	-	4		
	生徒及び教職員の健康の保持増進	<b>保健部</b> 生徒及び教職員の健康の保持増進を図り、自分の健康に関心をを持たせる。	定期健康診断を実施し、治療及び予防に努める。 受診勧告書を発行し、受診後は報告書を提出させる。全員の提出があれば「4」	3	3	B	・健康診断後の事後措置として、保健だよりでの啓発に加え、対象者へ2度受診勧奨通知を発行。以後も未受診の生徒へは、担任から保護者へ家庭訪問の際に直接受診勧奨した。内科や心電図など重症に結びつく可能性もあるものは100%受診をしたが、歯科や耳鼻科に関しては半数程度の受診となった。 ・希望者へ体組成を測定。肥満の生徒へは個別に食事指導を行った。また、食事については保健だよりでの啓発に加え、文化祭での展示(保健美化委員にて作成)を行ったことが、食習慣の改善、意識の変化につながっているかアンケートなどで評価していきたい。
			健康診断・保健指導を実施し、適切な指導・援助を行なう。 計画どおり実施できれば「3」、受診後、完治までの指導・支援ができれば「4」	3	3		
			健康の保持増進を図るため、出来るだけ多くの情報提供を行なう。 毎月・臨時の情報提供を行なったら「3」、計画どおり発行出来れば「4」	3	4		
	施設・設備の健康・安全対策	<b>保健部事務部</b> 生活・学習環境の安全・衛生・美化活動に努める。	保健部・学校薬剤師による環境安全点検（校舎内外）、安全衛生点検（年3回）を実施し、問題点があれば、速やかな対策を講じる。 点検を計画どおり実施したら「3」、問題点に対して速やかな対応策を講じた場合「4」	3	3	B	・安全点検は予定通り現時点で2回実施した。学校で改善可能なものと、専門家による確認・整備が必要なものに分け、事務部と相談しながら改善を進めている。 ・清掃活動については、少人数で負担の大きいものとなっているが、生徒職員協力の元、教室・施設美化に取り組むことができた。今年度はほとんどの生徒が掃除場所を掛け持ちで分担したり、教室のワックス掛けを年間1回に減らしたりしたが、次年度もこのような形で実施したい。
			掃除の徹底。 清掃活動を計画どおり実施したら「3」、問題点に対して速やかな対応策を講じた場合「4」	3	4		

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題	
				前期	後期	総合		
学校の組織的経営力の充実と向上	3年間を見通した教育活動の実践と校内研修の推進	教務 生徒の進路目標や個の適正に応じた教育課程の研究・検証と職員の研修の推進を図る	目標にあった特色ある教育課程を編成する。	3	-	B	・32単位の教育課程の実施については、放課後の部活動への影響も不安材料としてあったが、各部練習の工夫により、授業・部活動ともに円滑に行なわれている。 ・校内研修については概ね年度当初の予定通り実施できた。	
			年間計画通り教育課程委員会が開催し、現行の教育課程の問題点の改善や検証ができれば「3」					
	校内研修の充実と積極的な参加を促す。	3	4					
	年度当初に年間計画が示せれば「3」 計画の8割が実施でき、かつ各の研修の参加が9割以上であれば「4」							
	総合的な学習の時間の充実	進路指導 キャリア教育を柱とし、3カ年を見通した総合的な学習の時間の運営と内容の研究。	キャリア教育を柱とした総合的な学習の時間の年間計画を立てる。	3	3	B		・卒業レポートに関して今年度より形式を変えたが、質の高い発表が行えた。来年度に向けてさらに充実した形で行えるように検討したい。 ・2年生については、来年度の受験に備えて志望理由書作成を行い意識を高めさせた。 ・具体的方策3について、来年度の計画は準備中であり、職員会議に提示できない状況である。来年度は評価基準を変更する必要がある。
			学習内容のバランス・担当人数のバランス・担当時間などに配慮して年間計画が立てられれば「3」					
総合的な学習の時間を運営する。 円滑に実施できるように、実施計画を調整できれば、「3」			3	3				
今年度の反省をし、次年度の計画を立てる。 担当者に今年度の反省をもらい、それを元に次年度の計画を年度末の職員会議に提案できれば「3」					-		-	
多様な教育活動に対応した学校事務の推進	学校の窓口としての適切な対応	事務 外部との接点、情報の出入口としての窓口業務の重要性を認識し、職員室との連携を密にしつつ、より適切で迅速な対応に努める。	適切な来客・電話対応。	3	3	B	・窓口の各種対応や電話対応は概ね適切に行えた。  ・今期も、従来からの処理の根拠を再確認していくことに注意を払ってきた。今後も、教育活動の理解に基づく効果的執行をより意識していく必要がある。	
			挨拶、用件を聞く、担当者への引き継ぎや案内を行うなど標準的な対応がスムーズにできれば「3」					
			職員室との連携と適切な対応。 内部の接点として職員室との連携を意識した、適切で迅速な対応ができれば「3」	3	3			
	適正で迅速な会計処理と予算の効果的執行	事務 法令等を遵守し、適正で迅速な会計処理に努めるとともに、教育活動の理解に基づいた予算の効果的執行に努める。	適正な会計処理。	3	3	B		
			規則等に則った適正で迅速な会計処理ができれば「3」					
			予算の効果的執行。 教育活動の理解に基づく効果的執行を教員からの要望にきちんと対応できれば「3」	3	3			
	施設・設備の安全管理及び整備・充実	事務 ・学校生活における生徒の活動・行動についての状況把握と理解に基づき、実態に即した、より効果的な施設・設備の安全管理に努める。 ・教育活動の実態に基づき、より適正な施設・設備の整備に努めるとともに、将来を展望した長期計画の策定により、よりよい教育環境の整備・充実を目指す。	校内巡視による実態把握。	3	3	B		・毎月の定期点検・随時の点検による修繕、1月25日の大雪時に発生した管理棟高架水槽給水管破損による漏水修理や生徒通学路の除雪等の対応を迅速に行った。また、テニスコート改修工事、武道場吊り天井改修工事にかかる生徒・職員の安全管理にも対応できた。
			校内巡視による安全確認ができていれば「3」					
			突発的な破損・故障への迅速な対応。 直ちに現場を確認し、対応策していれば「3」	3	3			
整備計画の策定。 長・短期的視点からの整備計画策定の何らかの準備をしていれば「3」			3				3	

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題
				前期	後期	総合	
学力の向上と充実を図る	基礎学力の定着と徹底	教務 基礎学力の徹底を図るとともに、学習のつまずきへの支援対策を講じる。	<p>考查前の西校朝学タイムの充実。 円滑に実施できれば、「3」</p>	3	3	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝学タイムの実施については、予定通りに実施することができたが、開始ぎりぎりの登校をする生徒も見受けられ、今後さらにクラスの協力が必要な学年もある。</li> <li>・年度途中ではあったが、授業評価を提示することができた。生徒の家庭学習の状況や各科目の授業への取り組みなど、学年団等に検討資料として配付したい。</li> </ul>
			<p>基礎学力の不十分な生徒への指導。 考查前の指導計画を立て、実施できれば、「3」</p>	3	3		
	学力の向上	進路指導 計画的・継続的な学習指導を確立し、学力の向上を図る。	<p>補習に積極的に取り組ませる。 怠情による遅刻・欠席者がいなければ「4」、全生徒に占める遅刻・欠席者が5%増えることに評価を下げる。</p>	3	3	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期に引き続き補習や模試への参加は体調不良者を除きほぼ全員が出席できた。</li> <li>・模試の実施についても計画通りできた。前期のような監督者のミスも報告もなかった。</li> <li>・「自発的な学習」につながるような指導は十分に行えていない。課題の消化で終わっている生徒が多いため、課題の出し方等について検討する必要がある。</li> </ul>
			<p>模試を有効に利用する。 模試を計画通りに実施し、事前事後の指導を徹底する。過去問や本試験の解説がなされていれば「4」</p>	3	3		
			<p>自主学習力を育てる。 家庭学習や学習会等を通して自主学習力を育てる。課題以外での自発的な学習が半数以上の生徒にみられれば「4」</p>	3	3		
	学力の充実と進路指導の徹底	1学年 学力の充実と向上を図る進路指導の徹底を通して、自己認識を高めさせ、各人の進路設計を確立する。	<p>家庭学習の充実。 毎日2時間半以上の家庭学習時間を確保する。 学習と生活の記録調査を毎週行い、60%いれば「3」</p>	2	3	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんどの生徒が1日平均2時間半以上の学習を行っている。4割ほどの生徒は1日3時間以上の家庭学習が身についている。一方で2割の生徒は2時間未満と家庭学習習慣が身につけていない。粘り強い指導が必要である。</li> <li>・面談に関しては<math>\alpha</math>、<math>\beta</math>のコース分けに関して時間を割いて行った。悩んでいる生徒とは繰り返し面談を行うことで、納得してコース選択が出来たと考えている。もう少し回数を増やせると良いと感じた。</li> </ul>
			<p>総合的な学習の時間の活用。 総合的な学習の時間を通して進路意識を高める。予定通り実施すれば「3」</p>	3	3		
			<p>個人面談の充実。 個人面談を毎月、家庭訪問を1回実施する。予定通り実施すれば「3」</p>	2	2		
	学力の充実と進路指導の徹底	2学年 適切な時期に個別指導を重ねることで、自己実現に向けての考えを深めさせ、進路達成への取組の充実を目指す。	<p>それぞれの生徒が置かれている状況とその特性や能力を把握する。 個人面談、家庭訪問をととして各生徒を理解することができたか。</p>	4	3	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人面談の回数は前期に比べると減った。三者面談は有意義な時間にする事ができた。</li> <li>・成績上位者の添削指導と定期考查前の学習会は前期に引き続き実施した。特に学習会における全生徒の集中力は回を重ねる毎に上がった。3月の学習交流会には3名が参加予定である。</li> <li>・家庭学習については、生活手帳の記録の結果、1日3時間学習できるようになった生徒は6名にとどまった。</li> </ul>
			<p>各生徒の学力や進路に応じた個人指導を実施する。 学力充実や進路実現のために、添削指導や学習会、学習交流会、ハイレベル模試の受験などの具体的な指導を実施することができたか。</p>	3	3		
			<p>家庭学習習慣の定着を図る。 毎日3時間以上の家庭学習時間を確保させることができたか。</p>	2	2		
	学習習慣の定着	3学年 学力の充実を図り、各自の進路希望の実現に向けて努力させる。	<p>添削指導や補充指導を通して、個々の能力に応じた指導を行う。 個々の能力に応じた添削指導や補充指導を実施できたと、教員の8割以上が判断すれば「3」</p>	3	3	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度途中で学習手帳の回収が徹底できず、一部の生徒の学習時間が把握できない時があった。学習時間の調査は指導上非常に有用なものなので、回収を徹底するべきであった。</li> <li>・添削指導は個々の進路に応じ適切になされていた。</li> </ul>
<p>家庭学習の習慣化を図る。 8割以上の生徒が、毎日一定時間の家庭学習の習慣がついているなら「3」</p>			3	3			

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題	
				前期	後期	総合		
学力の向上と充実を図る	①学習のつまずきを究明し、その対策を講じるとともに、学習指導法の工夫と改善に努める。	国語	授業計画について検討し、情報交換をする。	3	3	B	・特に1年生の授業に関して教材や指導計画の情報交換、検討を行っている。 ・学習項目の定着を目指した小テストは継続して行うことが出来た。	
		授業研究	学期に1回できれば「3」					
		段階的・系統的で分かりやすい授業を研究、実践する。	学習のつまずきを究明し、その対策を講じる。 具体的な対策が講じられたら「3」	3	3			
	②毎日の家庭学習2時間以上を基本として、進路実現を図るための学力を身につけさせる。			互いに授業を参観し合い、意見交換を行うことで指導力を向上させる。 学期に1回できれば「3」	3	3		
		国語	記述力養成のための指導を授業の中に取り入れる。			3	B	・3年生β以外で夏期の課題とした「少年の主張」の原稿をもとに添削指導を行った。論理的な文章を記述する上でのポイントを説明することで、発表者だけでなく生徒全員の記述力向上につながるような指導を行うことが出来た。 ・3年生βにおいては「国語表現」の授業で「少年の主張」の指導を行い、記述力向上に努めた。 ・1年の読書活動は定期的なブックトークの実施により深まりつつある。来年度は読書感想文コンクール等への参加も考えてよい。
		小論文指導	各クラスとも3回実施できれば「3」					
	生徒の書く力を育成する。	「少年の主張」を書かせる。 推敲によって内容が深まった者が7割いれば「3」		4				
		地理歴史	公開授業を行い授業力向上に努める。			3	B	・公開授業、研究授業を通して小中のキャリアの長い先生方の授業を見せて頂くことや自分自身の授業を見て頂くことで、授業実践の見つめ直しを図ることができた。 ・小テストは目標を達成することはできなかったが、前期と比べて平均点が改善され、それぞれの授業で最低限の知識が生徒たちに定着していると感じる。
	基礎学力の充実	公開授業ウィークス等を利用して授業力向上に努める。年2回以上できれば「3」						
	授業力向上に努め、生徒の知識の定着を確認、授業に生かす。	小テストの実施 毎時間、前時の復習小テストを実施し、平均点が7割を越えれば「4」 対外模試対策や休業中に課題を配布し、知識定着をはかる。 4回以上・・・4、3回・・・3 1回・・・2、0回・・・1	3	3				
		公民	小テストの実施			3	C	・地歴と比べても、自主学習を喚起できていなかった。αとβの合同であるので、生徒たちの意欲や小テストへの取り組みの姿勢を高めることができていなかったと思う。 ・ニュースを取り上げることはあまりできなかったが、資料集を用いて、現代社会の課題について考える機会を後期には作っていたので、これからはそういった取り組みを目指したい。
	公民的資質の育成	毎時間、前時の復習小テストを実施し、平均点が7割を越えれば「4」						
			知識の定着とともに、自らが生きる現代社会について思考・表現する力を養う。	授業と関連するニュースなどを取り上げ、それについて考えたことを発表させる。 3回以上/月・・・4、2回/月・・・3 1回/月・・・2、0回/月・・・1	2	2		
		数学	生徒の実情に合った課題を配布し、家庭学習の習慣をつける。			3	B	・課題に関してはすべての生徒が毎日取り組むものの、内容が充実していない。もう少し出来るのにやりきれていないところがある。課題に関しては難易度を低くして、どの生徒も解けるようなものが良いと感じる。習熟度の高い生徒には個別の課題を出すのが良い。 ・定期考査へはまじめに取り組むが、今ひとつ競争意識がなく全力を出し切れていない。競争意識を働かせるように、教員側が促していかないといけない。
		数学への興味関心を喚起する	9割の生徒が取り組んだら、「3」					
		自主的に家庭学習に取り組ませる。	定期考査前にしっかりと勉強させ、それぞれの目標以上の点数を取らせる。 ほとんどの生徒が目標以上の点数を取れたら、「3」		3			
	数学	生徒の実情に合った問題をそれぞれ用意し、授業や補習、課題等を利用して解かせる。			3	B	・年度の後半は、「反復」をテーマに基礎基本の徹底した反復を行ってきた。それが、基礎基本の定着につながっているとは感じるが、一方で応用力の伸び悩みも感じる。基本の問題から少し変わった問題に対して柔軟に考える力の育成が今後の課題である。	
	基本的な計算技術の習得と習熟および図形の基本的性質の理解	7割の生徒が正解できたら、「3」						
	四則演算、整式計算、様々な方程式を解けるようになる。角度・立体の体積や表面積をもとめることができる、円の性質を理解する。	就職試験や入試問題を家庭学習課題にして、学習の動機付けにする。 ほとんどの生徒が取り組んだら、「3」		3				

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題
				前期	後期	総合	
学力の向上と充実を図る	①学習のつまずきを究明し、その対策を講じるとともに、学習指導法の工夫と改善に努める。	理科	適切な課題を与える。	4	4	A	・計画通り基礎、専門科目共に進めることができた。授業や課題の取り組みは昨年より適度に実験や解説を加え理解の定着に結び付けるようにしたので基礎力は身についた。 ・3年生の受験指導においては個別で目標点に届かない生徒がいた。課題消化と定着が伴っていないことがあった。暗記型内容については問題ないが、内容について幅広い質の向上と計算力のスピード化を次年度の課題としたい。
		進路実現を図るための学力を身につけさせるとともに、学習指導法の工夫と改善に努める	学習習慣を身につけさせるとともに、学習内容の復習と進路に応じた実践力を育成する。また、提出された内容を元に、理解度を把握し指導に活かす。 課題消化率が9割以上なら「4」 課題消化率が7割以上なら「3」				
	②毎日の家庭学習2時間以上を基本として、進路実現を図るための学力を身につけさせる。	生徒の学習状況や理解度を把握し、進路実現のために必要な学力を身につけさせるための授業の工夫と課題の活用を研究する。	実験観察を積極的に行う。 効果的に実験を実施し、生徒の興味・関心を喚起し、学習内容の理解を高める。 教科全体平均で 半期に3回以上実施できたら「4」 2回以上実施できたら「3」	4	4		
		保健体育	生徒が積極的に集団行動に取り組む。	3	4		
	授業や体育の行事において、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高める。	生涯スポーツを見通した授業づくり。	3	3			
		各領域において基礎基本を身につけ、グループで計画的に練習に取り組んでいるか。	4	4			
	中高合同体育祭においてリーダーとしての態度を育む。 中学生のよきリーダーとして、合同練習へ積極的に参加しているか。	中高合同体育祭においてリーダーとしての態度を育む。 中学生のよきリーダーとして、合同練習へ積極的に参加しているか。	4	4			
		保健体育	新体力テストの実施と結果の活用。	3	4		
	新体力テスト等を活用し、基礎体力の向上を目指す。	新体力テストを5月までに実施し、結果の分析をさせる。	3	4			
		長座体前屈の定期測定	3	3			
		長座体前屈測定を2ヶ月に一回実施する。	3	4			
	個々の状況に応じた体力の向上。 授業初め、8分間運動を継続して実施する。	個々の状況に応じた体力の向上。 授業初め、8分間運動を継続して実施する。	3	4			
		芸術科	少人数・小集団での活動の実践。	3	3		
	協同的な学びの実現	少人数・小集団による活動を取り入れ、生徒同士の学びあう関わりを学期に1度以上実践できれば「3」	3	3			
		「聴きあう」場の設定。 発表演奏などの機会を設定し、相互に聴きあい、相互評価を学期に1度以上実施できれば「3」	3	3			
	学び合う関係、学びの場として、お互いに教えあったり批評することができる雰囲気構築する。	「聴きあう」場の設定。 発表演奏などの機会を設定し、相互に聴きあい、相互評価を学期に1度以上実施できれば「3」	3	3			
リズムテストを必要に応じて行う。		3	2				
基礎学力の定着	リズムテストを1ヶ月に1度以上行い、時間内に70%の合格なら「3」	3	2				
	音楽的基礎知識の定着。 楽典の復習テストを1ヶ月に1度以上行い、70%の合格なら「3」	2	3				
楽典の復習テストを1ヶ月に1度以上行い、70%の合格なら「3」	2	3	C	・行事の練習等に時間がかかってしまったこともあり、リズムテストが行えない月もあった。リズムテストは音楽を学ぶ上での基礎的な技術力の向上につながるもので、時間を見つけて行っていきたい。楽典の復習テストは、授業で取り扱う楽曲に付随して行うことができた。生徒も実際に演奏しながら覚えることができたようなので、この手法を引き続き行っていきたい。			

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題
				前期	後期	総合	
学力の向上と充実を図る	①学習のつまずきを究明し、その対策を講じるとともに、学習指導法の工夫と改善に努める。 ②毎日の家庭学習2時間以上を基本として、進路実現を図るための学力を身につけさせる。	芸術科	様々なジャンルの音楽に触れる機会の計画。	2	3	B	・前期の課題を踏まえ、鑑賞と表現が関連しあった授業を行うことができた。表現の授業の中でただ楽曲を演奏させるよりも、鑑賞の授業で楽曲について生徒の理解が深まっているので、それに伴ってより深い表現をさせることができた。課題としては、個別の実技試験を実施すると、普段の力を発揮できない生徒も見受けられるのでその点の改善策を考えていきたい。
		生徒の主体的音楽表現力育成	鑑賞と表現の関連をもたせた授業を行うことができた「3」				
		生徒に音楽芸術を身近に感じさせ、主体的、創造的な表現能力の育成を目指す。	個別または小集団での実技試験の実施。 学期に1回以上、個別または小集団での実技試験を実施することができた「3」	3	3		
		英語	公開授業・研究授業の実施。	2	2		
		学習のつまずきを究明し、その対策を講じるとともに、学習指導方法の工夫と改善に努める。	研究授業ウィークス等を利用して実施し授業力の向上に努める。年間を通して3回以上実施できれば「4」				
		授業力向上と教科指導の充実。生徒一人ひとりが英語を使う場面を増やす。	ALTとのTTにより英語に触れ合う機会を増やす。 TT授業を週1回以上実施しかつ生徒の授業中の発言が授業の3分の1以上あれば「3」	3	4		
		英語	予習・復習の徹底。	4	4	B	・予習や復習の確認はほぼ毎回の授業で行い、徹底させることができた。 ・小テストへの取り組みは、不合格生徒のやり直しを徹底させることができなかった。考査直前だけではなく、日頃から取り組むことの大切さを理解させる必要があると感じた。
		基礎学力の定着	授業開始前に予習や復習の確認を行う。9割の生徒が予習や復習を行っていれば「4」				
		英語に関する基本的な知識の習得。	各種テストのやり直しノートの提出。 確実に提出させる。9割以上の生徒が毎回確実に提出したら「3」 小テストへの取り組みの徹底。 確実に合格させ、基礎力を付けさせる。8割以上の生徒が合格したら「3」	3	4		
		英語	進路目標に応じた英語指導の充実を図る。	3	3		
		英語学力と英語運用能力の向上	考査や模擬試験の結果を分析し、教科面談を実施して指導に反映させる。効果的な指導ができれば「4」	3	3		
		生徒一人ひとりの英語学力の向上に努める。	自己学習能力の高揚を図る。音読を中心に正しい発音・アクセント・イントネーションの指導。 デカテーションやシャドーイングな様々なリーディングの効果的な利用で英語力の向上を図る。7割の生徒が英文を正しく読むことができれば「3」				
		家庭	保育実習の実践	—	4	B	・今年度も地域の方々に協力していただき、乳幼児体験を行うことができた。事前・事後アンケートから触れ合いを通して子どもや親に対する良いイメージの変化がみられた。 ・食物や保育の検定も積極的に受験しており、技術の向上を図ることができている。
		家庭生活を営むために必要な能力を身につける	乳幼児ふれあい体感を通して、男女協力して家庭や地域の生活を創造するための知識と技術を習得させる。効果的な指導・体験実習ができれば「4」				
生活に必要な知識と技術を習得させ、生活を創造する能力と実践的態度を育てる。	実践的・体験的な学習活動と問題解決的な学習の充実 文化祭での作品展示を目標に作品製作を行う。最後まで作品を完成させることができれば「3」 調理の工夫と実践 調理実習では年間10回以上を目標とする。安全に配慮し、効果的な調理実習ができれば「3」	2	3				

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題
				前期	後期	総合	
基本的な生活習慣の確立を図り、規範意識の高揚に努める	基本的な生活習慣を身に付けさせる	生徒指導 集団の秩序を守り、高校生として責任と規律ある生活態度の確立を目指す。	高校生さわやか運動（服装）を推進する。 指導されなくても自ら整える姿勢を養う。毎回の服装頭髪検査で8割以上が合格なら「3」	3	3	B	・服装頭髪検査については年間を通して高い合格率を保つことができた。5分前行動もよく守ることができている。 ・北松西高校さわやか運動として6月と10月に風紀委員を中心にあいさつ運動を展開することができた。10月には挨拶運動だけでなく、自主的に校門の周りを掃除する姿も見られた。また、自転車運転のマナーについて注意を促すポスターの作成・掲示にも取り組んだ。
			高校生さわやか運動（挨拶）を推進する。 風紀委員を中心に挨拶運動を実施。年に2回実施すれば「3」	3	3		
			時間の厳守。 指導されなくても規律ある行動ができるよう育てる。各行事5分前行動ができれば「3」	3	3		
	交通マナーの遵守を徹底させる	生徒指導 自転車乗車マナーの向上。	自転車整備の徹底。 整備不良については早急に改善させる。年3回の自転車点検で合格が8割以上で「3」	3	3	C	・駐輪場の使い方は年間を通してよかったため、点検を毎月行う必要性を感じなかった。そのため、3については来年度以降評価基準の内容を変更することを考慮したい。 ・自転車の危険な乗り方については、集会等で定期的に話をして注意を促すと同時に、もし見かけたり報告があったりすればその度繰り返し指導していく。
			全校集会などで自転車乗車マナーを指導する。 夜間無灯火・並走・傘差し運転の禁止。マナー指導が各学期に1回実施できれば「3」	2	2		
			駐輪場の整理整頓。 全車、駐輪場の車止めに停車させる。毎月の駐輪場点検が実施できれば「3」	1	2		
	学校、保護者、地域社会との連携	生徒指導 保護者、地域社会との連携により、学校と一体になって生徒の健全な育成を目指す。	保護者・地域との連携。 情報を共有し、生徒の健全育成に努める。生活補導会議を年に1回実施し、決定事項を確実に伝達できれば「3」	2	2	C	・携帯電話やインターネットの使い方について長期休暇前の全校集会で指導の場を設けた。今後は生徒達だけでなく、保護者への情報提供にも力を入れていきたい。また、外部機関や地域の方との連携も強めていく必要があると考える。
			職員間の連携。 問題行動が起きた場合は素早く情報を共有する場を設定する。機に応じて情報交換ができれば「3」	3	3		
			携帯電話の危険性の啓発。 携帯電話やネットを正しく利用できるように保護者と協力体制を築く。保護者への説明を年に1回できれば「3」	3	3		
	生徒の自治的活動の活性化	生徒会 活気ある学校づくりに、生徒一人ひとりが主体性を持って取り組む精神を養う。	学校行事への積極的参加。 各行事で生徒が主体的に企画・運営に関わる生徒主体となるよう生徒会の活動を支援できれば「3」	3	3	B	・西高祭や球技大会などさまざまな行事において、生徒一人一人が活躍する場を持てるように必要な手助けを行うことができた。
			各専門委員会活動の活性化。 各委員会で努力目標を設定し、それを達成する。問題点の把握とその改善に向けて努力する姿勢を養う。	3	3		
	部活動の充実のための支援	生徒会 体育部・文化部が充実した活動ができるよう、積極的に支援する。	部活動全員加入。心身共に成長できるよう支援する。 全校生徒が部活動に所属すれば「3」	3	3	B	・前期に挙げた大会に出発するタイミングについてだが、宇久高校の規定と比較してみても、一律に決めるのは難しく、その都度場合に依って議論を重ねていく必要があると考えられる。年度当初に議題としてあがったマネージャーについては来年度以降は原則募集しないとし全職員で共通認識を持って決定することができた。
部顧問会の実施。情報交換および部活動規定の見直しを行う。 部顧問会を年に1回実施できれば「3」			3	4			
問題を抱える生徒の早期発見と対処	保健部（教育相談） 学年及び分掌との連携を密にし、生徒の持つ問題点や悩みの解消に努める。	担任との情報交換、諸検査の活用で生徒の実態をつかむ。 計画通りに諸検査・各調査を実施し、その結果の報告を行うと「4」	3	3	B	・不登校傾向や、相談に来た生徒の情報を適宜、関係職員と情報共有した。今年度スクールカウンセラーへの依頼は1回だったが、今後も関係職員と連携しながら必要時、協力依頼をしていく。 ・不登校傾向生徒の保護者に対して適宜、電話や面談にて連携をしたことで情報共有ができたため、今後も継続していく。	
		個人面談や問題を抱える生徒との面談を行う。 学年・保健室との連携を密にし個人面談やカウンセリング活動を実施したら「4」	3	3			

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題
				前期	後期	総合	
基本的 生活習慣の確立を図り、 規範意識の高揚に努める	特別支援教育に関する 研究および実態把握	保健部（特別支援） 特別支援教育について教員の研 修に努めるとともに、特別支援 を必要とする生徒の実態把握に 努める。	特別支援教育に関する職員研修の実施。 職員の意識調査と特別支援教育に関する情報提供を実施したら 「4」	3	3	B	・個別の教育支援計画の様式については、小中高統一 （一部異なる）様式が完成した。次年度に向けて新様式 での引継ぎを行う。 ・個別の指導計画の本校版様式が完成した。気になる生 徒についてチェックリストの結果と合わせて検討し、作成 したものを引き継ぎたい。作成したものをどのように活用 するかは今後の課題である。
			特別支援教育を必要とする生徒の実態把握。 職員会議などで、職員全体に特別支援教育を必要とする生徒の実態把握を うながしたら 「3」	3	3		
			特別支援教育を必要とする生徒の個別の教育支援計画作成。 保護者、担任と連携を取り、個別の教育支援計画を作成し、活用する。	3	4		
	基本的生活習慣および 落ち着いた生活態度	1 学年 礼節・容儀・環境美化の大切さ を自覚させ、基本的生活習慣の 定着を目指す。	端正な服装・頭髪への心がけをもたせる。 服装頭髪検査を定期考査毎に実施する。9割の生徒が合格すれば 「3」	3	4	A	・服装頭髪検査においては、ほとんどの生徒が合格する ので問題ない。 ・挨拶に関しては、積極的に言うが元気のない生徒もおり、 元気でさわやかな挨拶を徹底させたい。 ・掃除に関しては取りかかりが早く、率先して取り組んで いる。
			挨拶の励行 授業の始業・終業時に100%の生徒が挨拶をする。 日常的な場面においても8割以上の生徒が自ら挨拶できたら 「3」	4	4		
			清掃活動への積極的な取り組みをうながす。 清掃活動に意欲的に取り組む。8割以上の生徒が取り組み 「3」	4	4		
	集団の中の「個」とし ての積極的な行動	1 学年 学級活動・部活動・学校行事等 への積極的な参加により、協調 性・自主自律の態度を養わせ る。	学級活動への積極的な参加。 ホームルーム活動に積極的に参加している。各係活動が日常的に機能して いれば 「3」	3	4	A	・学級活動においては全員で協力して取り組む姿が見ら れる。話し合い等でも積極的に意見が出て、学級活動が スムーズに進んだ。 ・学校行事にも積極的に取り組み、また前向きに取り組 んでくれた。
			部活動への積極的な参加。 生徒が積極的に参加している。日常的に8割の生徒が活動していれば 「3」	4	4		
			学校行事への積極的な参加。 積極的に参加し各学年と協力している。協力的な姿勢が見られたら 「3」	3	4		
	学校生活でのルールや 時間を守る指導の徹底	2 学年 挨拶・時間・環境美化の大切さ を自覚させ、基本的な生活習慣 の確立を目指す。	挨拶の励行 授業の始業・終業時に100%の生徒が挨拶をする。 日常的な場面においても自ら挨拶ができれば、「4」	4	4	C	・挨拶とマナーに関しては前期に引き続き良好であった が、時折敬語を使うことができていない生徒が見られた。 ・5分前行動に関しては、特に補習開始前に徹底させる ことができなかった。通常授業や集会・行事等における 集合は良好であった。
人と接するときのマナーの向上 目上の人と接するときの言葉遣いや態度が身についているか、また決めら れた時間を見越した行動ができていないか。			3	3			
時間の厳守 5分前行動を実践し、登校時・始業時の遅刻が0である。 5分前行動を実践できたら「4」			2	2			
基本的生活習慣および 落ち着いた生活態度	3 学年 基本的生活習慣を身につけさ せ、社会に対応できる人物の育 成をめざす。	あいさつの励行および場に応じた適切な言葉づかいを身に付けさせる。 あいさつおよび場に応じた適切な言葉づかいができる生徒が80%以上で あれば 「3」	3	3	B	・あいさつや礼儀、容疑面においてもきちんと出来ている と思う。 ・服装頭髪検査においてもほぼ100%の合格率が維持 できていた。	
		社会生活に対応できる容儀の指導を行う。 定期考査毎の服装頭髪検査で、95%以上の生徒が全ての検査項目を守っ ているなら 「3」	3	3			



評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題
				前期	後期	総合	
進路指導の充実を図る	進路意識の向上・進路実現	進路指導 将来の職業意識を持たせ、生徒の能力や適正に応じた進路意識の向上を目指す。	進路講演会の実施。 専門知識に長けた外部講師を招き進路希望に合わせた講演会を実施する。生徒の満足度が高ければ「4」	4	4	A	・インターンシップ実施後の生徒アンケートの結果、15名中14名が「職業に対する意識が高まった」と回答した。 ・進路検討会においては、人数が少なかったこともあり十分に議論をつくすことができた。また、3年生は検討の結果を生徒たちに反映させ全員志望先に合格させることができた。
			進路検討会の実施。 進路検討会・学力検討会の結果を基にそれぞれの生徒に適切な進路指導ができれば「4」	-	4		
			インターンシップの実施。 積極的にインターンシップに参加させ社会性や職業観を養う。生徒の満足度が高ければ「4」	-	4		
	進路希望の実現	3学年 個々の進路目標を明確にし、進路達成に向けての取り組みを充実させる。	生徒が必要とする情報を適宜提供し、進路意識の向上を図る。 8割以上の生徒が具体的な進路目標をもつことができれば「3」 納得のいく進路実現ができれば「4」 個人面談・三者面談を実施し、家庭と学校との共通理解のもと進路指導を行う。 各学期2回以上面談が実施できれば「3」	3	4	B	・志望先に全員合格でき、進路実現を果たせたことは評価できる。 ・一方で、夏になっても進路が定まらない生徒が1名いた。早期にこまめに二者面談することの大切さを痛感した。 ・受験後すぐに面接をすることが不徹底だった部分もあった。
小中高一貫教育の内容の充実を図る	小中高一貫教育の内容検証と改善	教務 小中高一貫教育の研究・活動の充実を図り、その教育方針の達成を目指す。	小中高一貫教育に関する会議日を設定し、校種間の調整を図る。 毎月1度「小中高教務部会」を設定でき、各々の行事等が円滑に行えれば「3」	3	3	B	・今年度は定例の教務主任会が1ヶ月前の上旬に実施することが多く、行事確認・調整が早い段階で行なわれた。 ・オープンスクールは、小中高合同会議と重なるが、中学生が夏休みに入る早い段階で実施することが、会の効果を果すと考えられるので、今後もこの日程が適当であると思われる。
			オープンスクールや入試説明会を実施する。 中学校・中学生・保護者に本校の教育方針等を伝えることができれば「3」	-	3		
	学校行事におけるリーダーシップの発揮	3学年 最高学年としての自覚を促し、学校行事においてリーダーシップを発揮させる。	学校行事や部活動を通して、リーダーシップの発揮を促す。 行事に積極的に参加し、下級生に対してリーダーシップを発揮できたと、教員の8割以上が判断すれば「3」	4	4	A	・体育祭、西高祭などにおいて上手に役割分担をして行動する姿は後輩達へのお手本となった。
	小中高12年間を見通した系統的・継続的な教育の推進	2学年 中堅学年としての自覚を持たせ、地域に開かれた明るい校風の樹立を目指すように指導する。	学級活動への積極的な参加を図る。 クラス委員や係・清掃・その他の学級活動に積極的に参加していたか。	4	4	A	・学級活動・部活動共にすべての生徒が活発に参加することができた。 ・体育祭や文化祭では、中心的な役割を果たし、3年生をサポートしたり、1年生や中学生に先輩として指導したりする姿も見られた。
			部活動への積極的な参加を図る。 日常的に100%の生徒が積極的な活動ができていたか。	4	4		
			学校行事への積極的な参加を図る。 積極的に参加し各学年や小中学生と協力できたか。	4	4		
	小中高一貫教育	国語 小中高職員で協力し、継続的な指導の研究を行う。	公開授業を実施し、意見交換を行う。 年に1回以上実施できれば「3」	3	3	B	・研究授業ウィークスの研究授業は中学校で、国語科部会でテーマとされたICT機器を活用した授業が実施された。見学し、協議を行う中で、来年度以降ICT機器を活用した授業を実施する上での知見を得ることができた。
各校種の現状について、情報を交換する。 年に1回以上実施できれば「3」			3	3			

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題
				前期	後期	総合	
小中高一貫教育の内容の充実を図る	小中高一貫教育の内容の工夫を図り、その成果を検証し、改善に努める	理科 小中高12年間を見通した系統的・継続的な教育を推進する。	小中高の職員が協議し系統的な理科教育の流れを確立する。 小中高12年間の理科教育で実施する実験リストを作成し、情報を共有する。(今年度は化学) 実験リストの実験について研究協議できたら「4」 実験リストを作成し共有できたら「3」	4	4	A	・小中学校の先生方と公開授業、研究授業など1年を通じて教材や授業の進め方など意見交換ができた。今年度は化学分野が研究の対象となり、ICTの活用で生徒の理解の定着につながったと感じた。 ・各発達段階での学習内容やその授業方法、使用教科書などを確認できた。今後も理科部会を通じて情報を共有しながら、12年間を見通した理科教育を構築するよう努力していきたい。 ・来年度は生物分野での研究となる見込みである。校外での観察も含め、小中または中高合同での授業の実施も検討課題として出ており、より多くの情報交換の必要性が出てくる。
			公開授業の実施。 小中高の教員で授業内容の協議を行い、公開(研究)授業後に授業研究を行う。 2人とも公開(研究)授業を実施したら「4」 1人が公開(研究)授業を実施したら「3」	3	4		
	郷土学習を進め、郷土を愛する心を育てる	家庭 地域保護者との連携を深め、郷土について学習する機会を作ることにより、郷土についての知識と愛着を深める。	地場産物を使った調理実習を行う。 1回の調理実習で、小値賀産の食材を2種類以上使用できたら「3」	3	3	B	・昨年度できなかった小値賀の特産品についての調べ学習を行うことができた。地元の魚と野菜を使用した郷土料理教室では、地域の方々と触れ合いながら、郷土についての知識と愛着を深めることができた。
			小値賀の特産品や農作物を知る。 調べ学習を行い、小値賀の特産品や農作物についてまとめることができた「3」	—	3		
			郷土料理教室の実施。 地場産物を用いて、郷土料理を完成させることができた「3」	—	3		
	小中高間での連携の活発化	家庭 共同の授業研究を行い、小中高の連携を図って段階的な学習内容や行事を検討する。	共同の授業研究 1時間以上の授業研究会を3回開催することができたら「3」	2	2	C	・昨年度よりも研究会を開催することができなかったが、今年度の課題であった授業の改善を図ることができた。ICT機器の活用、外部講師を招いての授業の実践により、教材の蓄積を行うことができた。
教材・授業案の蓄積、共有化 年間を通して、新たに試みられた授業内容の授業案化、データ化、教材の蓄積ができた「3」			2	3			